

平成 30 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホームぶどう苑 第1

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372300327		
法人名	特定非営利活動法人 ともにあゆむ会		
事業所名	グループホームぶどう苑 第1		
所在地	岩手県花巻市大迫町大迫1-4-55		
自己評価作成日	平成30年6月27日	評価結果市町村受理日	平成30年9月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detai_1.2017.022_kani=true&Ji_gosyoCd=0372300327-00&PrEfCd=03&VerSi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年8月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念「幸せの追及」「笑うほめるde元気になる」をモットーに日常の生活に喜びや楽しみを感じてもらえるよう取り組んでおります。

職員には介護技術向上の為、資格取得を奨励し勉強会の実施や薬剤師を招いてクスの正しい使い方等、技術向上に力を入れております。

日頃から防災意識を高め火災や地震等を想定し避難誘導訓練を定期的実施しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニットのぶどう苑は、市の総合支所に隣接した街並みの外れに位置し、庭先に畑が広がる閑静な場所にある。敷地内には、ホームと隣接して、小規模多機能ホームがあり、避難訓練や諸行事、会議等協力関係が築かれており、利用者の交流も日常的に見られる。職員は、レベルアップ委員会やレク委員会、食事委員会を組織し、コミュニケーションの向上や行事の企画、楽しい食事の工夫等を通して、利用者の中で喜びや楽しみを感じてもらう支援をしている。またボランティアを積極的に受け入れ、カラオケ、習字教室、紙芝居を定期的開催し、利用者の生きる力や自信となっている。今後、看取りに向けた医療連携の体制づくりや地域防災システムの取り組み、現在の外部へ出かけていく地域交流に加え、ホームへ来ていただく工夫等を検討している。「利用者の幸せを追求」する前向きな姿勢が感じられる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

平成 30 年度

事業所名 : グループホームぶどう苑 第1

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念に沿い、ユニット目標を掲げ毎朝のミーティングで唱和を行い、職員の意識を高めると共に日々のケアに繋げている。	理念と共に、毎年ユニット毎に目標を立て、第1では「笑顔づくりと元気な声」、第2では「あの手この手で穏やかに笑顔いっぱい第2の輪」を掲げホールなどへ掲示するとともに、毎朝の唱和により意識づけと共有を図り、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	踊りの慰問では地域の方々に案内し来苑していただき一緒に観賞した。保育園や中学校生との交流も毎年行われている。	自治会に加入しており、カラオケや習字教室、地元の民話を編集した紙芝居、更には文化祭への作品展示等地域との交流が活発である。チャリティーショーでは利用者もステージで踊りホームを知っていただく機会になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や各教室等で地域の方々の協力を得て交流を図る事で理解していただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催し活動の状況の報告を行っている。地域との交流会や行事に会議を重ね活動を直接見ていただくこともある。	会議は2ユニットと小規模多機能ホーム合同でも開催され、委員からは水害や不明者対策等の質問が、消防署からは応急手当等のアドバイス等、会議は活発である。委員から、行事への参加や避難訓練時の支援者の紹介など、事業所活動へ理解や協力も得られている。	会議録は毎回職員へ回覧しており、今後は、交替で主任の持ち回りも検討しているとのこと。職員の参加は、自らの業務へのモチベーション向上にも繋がり、大いに評価され、一層の取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議への参加により、連絡や情報交換等を行っている。 その都度支所へ出向いたり又は電話相談も行っている。	市の総合支所が隣接しており、介護保険や福祉関係で、直接相談したりアドバイスを受けている。市から、問題を抱えた入居希望者の相談があり、話し合いの結果入居には至らなかったなど、地域の問題でも協働の関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないケアに努めているが、緊急性や危険と思われる際は家族の同意を得て行うこととしている。夜間は職員一人になる事から玄関の施錠はしている。	玄関は日中施錠しておらず、夜間の転倒防止のため、数人にセンサーマットを使用している。身体拘束のマニュアルを整備し、レベルアップ委員会で運用の徹底を図っている。又、外部研修などで知識を深めているが、指示や催促等の言葉はつい出ることもあり、互いに注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務内での虐待が起こらない様注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について必要な際に活用できるように資料をそろえ、また制度について学習する機会を設けたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に本人、家族に十分な説明を行うと共に理解を求め納得した上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員全員が常にコミュニケーションや情報共有を心掛け状況を把握できるようにし、家族来苑時には状況の報告に対し意見や要望を聞き入れ対応している。	家族が来苑した際、要望などを聴くほか運営推進会議でも意見等をいただいている。家族からは個々のサービスに関する要望が多く、それに沿った支援をした結果、本人の前向きな変化に繋がり、家族から喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議では、職員が意見や提案を発言できるよう配慮している。また議題の内容や雰囲気作りも大事にしている。	主任会議やユニット会議では、職員が自由に意見や要望を出しやすい雰囲気作りに配慮し、日頃から話しやすい環境作りに努めている。利用者が、庭で寛ぐ長椅子やかき氷機の購入、洗面所の柵作り等の提案があり具体化している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	居室担当や各委員会等それぞれの意見や提案を基に役割の達成につなげ、今後の取り組みにつなげるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修に参加の際は内部勉強会やユニット会議、書面等で報告し、実践に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護等の研修やグループホーム協会の交換研修に参加し情報交換を行い質の向上に繋げている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査を行う際は、本人、家族同席の基で行っている。本人及び家族の気持ちや要望に耳を傾けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス内容について家族に説明をし、サービス開始後も家族と連絡を取り合い来苑時には状況を伝え、要望等を伺い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントに重点をおき、他のサービスを視野にいれながら、本人、家族と検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の簡単な手伝いや片付け、苑庭、室内の清掃を職員と一緒にいき、共に暮らしていると言う雰囲気を作っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来苑時には、必ず近況を報告している。遠方からの来苑者には写真を撮り記念として渡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のボランティアを受け入れている事により利用者の顔なじみの方の来苑がある。教室や慰問などの後、おやつを一緒に食べていただきながら交流を深めている。	地域の行事やスーパーで知人と出会うことも多く、以前から利用している理美容院へ家族や職員が連れて行き、また出張もしてくれる。定期的に来るボランティアとの交流や事業所同志の往来も自由である。懐かしいSLの見学や神社参拝など、利用者の思いを汲んだ支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状態に関係なく職員が間に入りグループ活動などを行い孤立している利用者がいないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等によりサービスが終了しても退院が決まった時には連絡をいただき、次の受け入れ先の相談をうけたり支援をしたりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中でご本人の希望や得意なことの把握に努め、楽しみを持って生活できるように取り組んでいる	日々の会話や行動の中で利用者の意向や希望を把握し、上手く表現できない人には、表情や動作を注視し、状況に合わせて対応している。家族からも情報を得る等、得意な事を生活の中で活かしていけるような支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所申込時や日々の会話の中でこれまでの生活を把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを尊重しながら、レク活動等を通じ状態の把握に努めている。また、得意なことを見つける機会となっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議でケース検討を行い介護記録に反映している。また、ご家族面会時に意向を伺い計画に取り入れている	居室担当が個人ごとの介護記録と連絡ノートに基づきモニタリングを行い、本人・家族の意向も反映して職員で話し合い、ケアマネジャーが介護計画を作成している。6か月毎にモニタリングを行い、状況に変化がある場合はその都度、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録やノートを活用し気づいたことや注意点など情報の共有に努めている。また、毎朝のミーティングにて検討し、迅速な計画の見直しに活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望により、居室での食事会や曜日を決めてお酒の提供・月数回の娘様宅への外泊等柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児や中学生との交流・習字やカラオケ教室・唄う会・地域の祭り等地域の方やご家族にご協力いただき生活に楽しみを持ってよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には職員が同行させていただいたり、情報提供書により、苑での様子を医師にお伝えし適切な医療を受けられるようにしている。	かかりつけ医は、本人・家族の希望により決めている。受診時は家族の同行とし必要時には職員も同行して詳細な情報を報告している。受診の際は情報提供書にてバイタル等を伝え、適切な医療に結びつく支援をしている。なお訪問診療が月2回、歯科は必要に応じて往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時には看護職員と電話で連絡をとれる体制をとっており適切な受診や看護を受けられるよう支援している。看護師出勤時には利用者様の細かな変化も伝えるようにしており、受診につながったケースもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護状報提供書を記入し、苑での様子をお伝えしたり、可能な限り面会に伺い情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や看取り介護について説明し、同意を得ている。延命はしないとの希望書にサインされている方もおられる。	看取り指針については、入居時に本人、家族に説明し同意を得ている。医療連携については、医師とも少しずつ話しを進めている段階である。近々退院を予定している看取り希望の方がおり、ケアマネージャーが家族と話し合う予定にしている。職員は不安もあるようだが、勉強会により知識を深めるなど、研鑽を積んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っている。消防署にも参加して頂き指導をいただいている。今年も地域の方に協力をいただき訓練をおこなった。昨年は水害を想定し2階への担架を使用しての避難訓練を行った	消防署の参加の下に、土砂災害を想定した避難訓練を数回実施し、ホーム独自で夜間の訓練にも取り組んでいる。訓練により、職員自らの災害への意識や対応力が向上し、また避難場所の見守りに地域住民の協力も得ている。	ホームは河川のすぐ側にあり、水害時は消防署の指導もあり、第2ユニットの2階へ避難することになっている。第1ユニットには重度の利用者が多いことから、火災時の避難場所も含め具体的な避難訓練が求められる。また運営推進会議等を通じ地域の自主防災組織との連携等も期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導や入浴の際など個々の状況に合わせた誘導や声掛けをしている。	日頃から、ことば掛けには、自尊心やプライバシーを損なわないよう特に留意している。風呂場のドアは二重にし、カーテンで仕切り、プライバシーに配慮している。排泄の失敗時には、職員同士サインで分け合い、さり気なく支援している。年1回、理事長が利用者個々に感謝状を贈っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションを重視し本人の望んでいる事思っていることを引き出すように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時その時の本人の希望や体調を考慮し外気浴や散歩等の支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替え等、本人も一緒に衣類を選んでいただき準備を声掛けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や苑庭での食事の他、利用者の誕生日には希望のメニューを入れている。手作り昼食会を企画し職員と一緒に食事作りを行っている。	食事委員会の企画で、全員が完食できるよう形態や量に配慮し、手作り料理の日、苑庭でのカレーの日、流しそうめん等、楽しめる食事の工夫をしている。利用者は能力に応じて、みそ汁やゴマすり等の下準備から後片付けまで参加している。利用者からおやつ作り方など教えてもらうことも多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定をし、増減に気を付けている。食事量や水分量は一人ひとりの状態に応じた量としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアのお声掛けや利用者様によっては介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせた声掛けを行い、定時のトイレ誘導を行っている。排泄のサインを見逃さず随時の誘導に心がけている	排泄チェックシートやサインを確認し、トイレ誘導を図ることにより、日中はほとんどがトイレを利用している。オムツ使用から、自立した排泄に改善した結果、利用者の自立歩行に結びつき、活発な動きと、明るさを取り戻した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レク活動に便秘体操をおこなったり、苑内散歩をしていただいている。定期的に朝食にヨーグルトを提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルチェックを行うと共に利用者様のその日の気分や体調に応じて入浴して頂いている。入浴日ではなくても希望があれば支援している	入浴は週3回午後にしており、また希望によりいつでも入浴できる。入浴が楽しめるよう個々人に合わせ対応を工夫をしており、入浴を洗る人も入浴後は、満足顔になる。入浴を強く拒む方が、適切な治療により、穏やかに入浴に応じるようになった例がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	椅子で居眠りをされておられる方には居室へ誘導し休んでいただくようにしている。また、ソファの方が居心地の良い方もおり、一人ひとりの希望に沿った支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居室担当が中心となり、薬の変更等あった場合は職員へ周知している。体調に変化が見られた時には毎朝のミーティングで情報共有している。服薬はスプーンを使用するなど飲みやすい支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きやタオルたたみ・卵割り・納豆のバック開け等一人ひとりのできることを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望により、ドライブや散歩等に出かけるよう支援している。今年は地域の餅まきにでかけている。	天気の良い日は、全員、日光浴や散歩に出かけ体力をつけ、苑庭では、他の事業所の利用者と、ぶどう狩り等を楽しんでいる。陣取って商店街のちんどん屋を見物したり、道の駅のかかし祭り見物など、外出への率先した支援をしている。正月やお盆の外出のほか、選挙時の同行もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を所持している利用者は2名ほどいる。おやつやジュースを近くのスーパーや自動販売機で購入したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があった場合等に対応している。ハガキ等届いたりするが返信までには到っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには季節の花を飾って観賞したり、廊下居室には行事や普段の生活の様子など写真を掲載し家族等にも情報を発信している。西日の当たる居室には簾やよしずをしようしている。	ホールには、利用者の状態に応じて、丸や四角のテーブル、ソファが配置され、畳の小上がりもある。また玄関などに季節の花を飾り、壁にはタペストリーや干支の作品、習字、思い出の行事や普段の様子の写真が貼られ、家族等との話題にもなるなど、団らんのある心地よい場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前や廊下にソファを置き利用者の交流が出来るように配慮している。また食事席も仲の良い利用者同士の席の配置にも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた時計や寝具(枕など)、日用品は入居の際持ち込んで頂いている。	居室には、ベッドやダンス、吊り棚、押し入れや冷暖房機が設置されており、利用者は使い慣れた時計や寝具類を持ち込み、遺影や家族との写真で自分の部屋らしくしている。利用者を褒める理事長の感謝状が各部屋に飾ってある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室はわかりやすいように名札や写真を掲示している。利用者が行き来する場所には手摺りを設置。トイレには高さの違う手摺りを取り付け立ち上がりやすいようにし自立への手助けとした。		